

平成 30 年度（2018 年度）

自己評価 報告書

学校法人福岡保健学院
下関看護リハビリテーション学校
理学療法学科

1. 自己評価の概要と実施状況

1) 自己評価の目的・方針

- ①教職員が自己評価を行う中で、学生教育並びに学校運営に関する自己点検、確認、検討の機会とする。
- ②自己評価の妥当性を、学校関係者評価において確認し、学生教育や学校運営についての客観性・透明性を高める。
- ③自己評価ならびに学校関係者評価により、学校運営・教育活動における課題を明確にして、学校運営の改善を図る。
- ④自己評価は本校の学校評価実施規定に則り、「専修学校における学校評価ガイドライン」「学校関係者評価の項目」に応じて実施する。

2) 自己評価委員会委員（10名）

委員氏名	所属
林 研二	下関看護リハビリテーション学校 学校長
落合 裕之	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科副学校長兼事務長代行
鮫島 陽子	下関看護リハビリテーション学校 看護学科副学校長
藤本 一美	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科教務部長
森寺 智子	下関看護リハビリテーション学校 看護学科教務部長
佐野真由美	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科教務主任
吉田 修一	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科教務主任
上田 雅子	下関看護リハビリテーション学校 看護学科教務主任
林 輝真	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科副教務主任
小林 愛	下関看護リハビリテーション学校 看護学科実習調整者

（委員会は自己評価の実施、評価、検討のために随時開催する）

本報告書は、学校法人福岡保健学院 下関看護リハビリテーション学校の理学療法学科教員の自己評価結果を記したものである。

令和元年 7 月 1 日

学校長 林 研二

学校評価実施責任者

副学校長 落合 裕之(平成 30 年度)

3) 自己評価方法

平成 30 年度の教育活動、学校運営の全般にわたり、項目 I ～項目 X の内容について、教職員個人による自己評価・自己点検の機会を設け、集約した結果を参照して、自己評価委員会にて評価を行う。

また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性についての検討を行い、学校関係者評価の結果と併せて、健全な学校運営に役立てる。

2. 自己評価の内容

自己評価、学校関係者評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による 4 段階の
 評価基準にて実施する。

1) 評価基準

- S : 十分に達成している。 (達成度が高い)
 A : 達成している。 (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
 B : 達成がやや不十分である。(若干の改善を要する)
 C : 達成が不十分である。 (不適合がある、明らかに改善を要する)

2) 自己評価の内容

- 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
 項目Ⅱ 学校運営
 項目Ⅲ 教育活動
 項目Ⅳ 学修成果
 項目Ⅴ 学生支援
 項目Ⅵ 教育環境
 項目Ⅶ 学生の募集活動、広報活動
 項目Ⅷ 財務
 項目Ⅷ 法令等の遵守
 項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

「人間愛・自己実現」という基本理念のもと、技術と知識を基盤とした実践能力のある理学療法士を養成するとともに、対象者を共感的に理解し、受け入れ、主体的に専門的な知識・技術を生涯追求し、人格向上のための自己研鑽を怠らず、自己実現を成し遂げることができる人材を育てていくことを本校の教育理念としている。また、この教育理念に基づいた理学療法学科の教育目的・目標を掲げ学生教育に取り組んでいる。

教育理念・目的・目標等については、学内掲示・学生便覧にて学生・保護者に周知するとともに、パンフレット・Web サイト等で公表している。

課題

特に学内において、さらに浸透させるために伝える機会を増やす。

改善の方策

教育理念、教育目的・目標、人材育成像について、始業式や終業式、ホームルームなどで機会を捉えて周知を行っていく。

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価: A

■コメント

総括に記載の通り定められている。

小項目Ⅰ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか。

■自己評価: A

■コメント

総括に記載の通り周知を行っている。

小項目Ⅰ-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価: A

■コメント

教育課程編成委員会並びに実習指導者会議を通じて、業界ニーズを教育に取り入れている。

項目Ⅱ 学校運営

総括

年度ごとに福岡保健学院の方針を受け、リハビリテーション学院・学校 5 校の教育事業方針、重点目標が設定される。それらを受けて本校理学療法学科では、管理目標を設定し、計画立案、実施、中間評価、最終評価を行っている。

運営会議・管理会議・学科会議が学則に規定されるとともに、定期的開催され機能することで学校運営・学生教育が滞りなく行われている。

情報システムについては、学事サーバーにて学事に関する情報管理を行い、業務の効率化を図っている。今後は、タブレットを導入し、情報伝達の効率化も進めていく予定である。

課題

働き方改革による休暇取得の必要性もあり、今後さらなる業務の効率化を図っていく必要がある。

改善の方策

会議の時間短縮・効率化、業務分担の見直し、業務の一部外部発注など。

小項目Ⅱ-1

目的等に沿った運営方針が策定されているか

■自己評価: A

■コメント

総括に記載の通り策定されている。

小項目Ⅱ-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか

■自己評価: A

総括に記載の通り明確化されている。

小項目Ⅱ-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

学事サーバーをファイルサーバー設置し効率化を図っている。

項目Ⅲ 教育活動

総括

教育課程の編成方針、実施に関しては、学校法人の教育理念のもと、指定規則に従い法人内のリハビリテーション学校・学院でカリキュラム委員会を設けて検討を行い、運営委員会の決議をもって実施されている。

キャリア教育に関しては、1 年次より段階的にスキルアップできるように、カリキュラムを作成している。臨床実習についても、法人内リハビリテーション学校・学院で委員会を設けて、実習施設とも協議検討を行いつつ、改善を図っている。

また、空きコマを利用した補習や低学力者に対する個別指導・少人数指導など学習支援に取り組んでいる。

課題

目的意識が低い学生や学力面でサポートが必要な学生が増加傾向にある。

改善の方策

入学直後に低学力者を把握し、早期から個別や少人数での学習支援に取り組んでいく。

小項目Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: A

■コメント

総括に記載の通り実施されている。

小項目Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: A

■コメント

理学療法士の実践を学ぶ 3 年次の臨床実習に向け、1 年次より段階的に情意領域・認知領域

(知識)・精神運動領域(技術)のカリキュラムが組まれている。今後も、教育課程編成委員会ならびに実習指導者会議・研修会等での意見を取り入れながら改善を図っていく。

小項目 Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: A

■コメント

学生へのアンケート調査ならびに教員間での評価を行っている。

小項目 Ⅲ-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: A

■コメント

指定規則及び国家試験出題基準も考慮したカリキュラムが組まれている。また、カリキュラム外でも1年次より段階的な国家試験対策を計画し取り組んでいる。

小項目 Ⅲ-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価: A

■コメント

学会や研修会に積極的に参加している。法人においても教育力向上に目的に毎年研修会が開催され、全教員が参加している。

項目Ⅳ 学修成果

総括

就職に関しては、就職説明会、マナー講座、履歴書作成指導、面接指導等の支援を実施している。今年度は、12月までに70%以上の学生が内定をいただいている。(何度内に100%達成。13年連続)

国家試験結果に関しては、学校での自己採点の結果で90%以上の学生が国家試験合格ライン168点を上回っている状況である。(合格率90.4% 3月25日発表)

低学力者には、1年次より個別や少人数での学習支援に取り組むとともに、生活習慣の改善の

ために保護者面談等も実施し保護者の協力も得ながら教育を行っている。

退学率の低減の取り組みとしては、上記の低学力者への学習支援の他、定期的な面談の実施や日頃の教員からの声掛けによる学生状況の早期把握とサポートの実施、学校行事やグループ活動を通じての学生同士の関わりを強くするなどの対策を図っている。

課題

入学者の学力が低下傾向にあるため、可及的早期から対策を実施していく必要がある。

改善の方策

これまでの学習支援に加え、ICTを活用したイメージしやすく、わかりやすい授業を工夫し、早期学習習慣の確立へも役立てていけるように検討し、実践していく。

小項目 Ⅳ-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

就職活動セミナー、マナー講座、関連病院見学、履歴書作成指導、面接指導を実施するとともに、就職活動状況を随時把握し、情報の共有を図り指導に役立てている。関連病院では、グループ校を優先した就職試験が実施され連携が図られている。

小項目 Ⅳ-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

過年度の反省を踏まえ、毎年国家試験対策の計画を修正し、改善を図っている。その計画に従って、各学年において国家試験対策に取り組んでいる。

小項目 Ⅳ-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

総括に記載の通り退学率低減に取り組んでいる。

小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: A

■コメント

今後も学生の活動状況を把握し、ボランティア活動を促していく。

項目 V 学生支援**総括**

進路・就職に関してはこれまでの記載通り、しっかりと支援を実施している。

学生の相談に関しては、日ごろから教員へ声をかけやすい雰囲気をつくるとともに、教員からも学生に声掛けを行うようにしている。担任制をとり定期的に面談を実施するとともに、学生からの相談にも適宜対応をしている。また、週 1 回スクールカウンセラーによるカウンセリングも実施している。

保護者とは、成績や出席状況に応じて早めに状況を伝えている。また、必要に応じ保護者面談を実施し、問題の早期解決を図っている。保護者会も年 2 回開催している。

高専連携については高校で開催されるガイダンスに積極的に参加するとともに、本校に来校してのキャリア教育も受け入れている。

修学支援としては、早期入学者に対する初年度授業料減免制度、家族入学割引制度、特待生減免制度、災害被災に伴う学資支援制度がある。また、学生寮を完備したり、昼食に学校から補助金を出したりすることで学生の経済的負担を軽減している。

課題

今後さらに高専連携を強化していく必要がある。

改善の方策

学習成果を向上させていくとともに、高校に本校の魅力をしっかり伝えていく。そうすることで、高校から選ばれる学校となり、ガイダンスやキャリア教育の受け入れ件数を増やしていく。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

既に記載している通り、支援体制は整っている。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

総括に記載通り学生相談に関する体制が整っている。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: A

■コメント

総括に記載通り保護者と連携を図っている。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: A

■コメント

中学校・高等学校に対しての職業講話や、体験授業を積極的に受け入れている。

今後、高校より依頼の授業協力等も積極的に取り組んでいく予定である。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: A

■コメント

総括に記載の通りの支援を行っている。

項目 VI 教育環境**総括**

施設・設備・備品・図書等については、設置基準ならびに関係法令に適合し、学習効果を向上させるためにプラスαで揃えている。また、ICT 教育の充実を図るため、今年度は WIFI 環境を再

整備した。次年度より iPad を導入し、授業や自己学習に活用していく。

臨床実習、生活機能演習、対人関係演習など実習施設については、関連施設にて十分に確保されている。また、実習の指導体制については、指導者研修会や日頃の会議等でグループ 5 校と関連施設との連携が十分にとれ、本校においても教員の実習訪問や電話連絡などによって密に連携が図られている。

消防避難訓練を年 2 回実施している。

課題

指定規則改定や今後も変化し続ける医療情勢に対応できるよう、教育環境を整えていく必要がある。また、防災等に対する対策が必要である。

改善の方策

毎年、設備・備品については、購入計画を立てて充実を図っていく。また、実習指導体制についても、関連校・関連施設と連携しながら更に充実をはかっていく。防災等の対策として、マニュアル作成を行い職員・学生に周知させる。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

総括に記載の通り整備されているが、今後も計画的に充実を図っていく。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: A

■コメント

総括に十分な指導体制が整備されている。今後も更に充実を図っていく。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

法令に基づく消防設備の点検および消防避難訓練の実施以外に、災害対策マニュアルも作成するとともに職員・学生に周知を行う。

項目 VII 学生の募集活動、広報活動

総括

パンフレットやホームページ、SNS、広報媒体等を用いて本校の情報を発信している。また、オープンキャンパス・学校説明会・ガイダンス等で対象者や保護者へ直接本校の情報を伝えている。高校の先生方へは、高校訪問や本校で開催する高校教諭対象の学校説明会において理学療法士や本校の情報を伝えている。また、スポーツ関係のボランティア活動に積極的に参加することも理学療法士の魅力を高校生等に伝えられている。

課題

少子化、高校再編等が進む中、学生募集はさらに難しくなることが予測される。

改善の方策

学習成果を向上させていくとともに、本校の魅力をしっかりと伝えていくことで、生徒・保護者、社会人の方々、高校の先生方から選ばれる学校にしていく。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: A

■コメント

パンフレットやホームページ、ガイダンスや高校訪問、本校で開催する高校教諭対象の学校説明会等において情報提供を行っている。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: A

■コメント

資格取得状況ならびに就職状況についても、正確に伝えている。

項目Ⅷ 財務

総括

事業計画に基づき予算が計上され、適切な運営がなされている。財務は法人本部と各学校財務で確認を行う 2 重チェックで財務管理が行われている。また、決算及び予算については、理事会で検討・承認が行われ、会計監査の実施により、適正に行われている。また、事業計画については、学内の両学科で検討・調整を行い、予算計画を立てて運営している。

課題

全教職員の学校経営に関する意識を高めていく必要がある。

改善の方策

年度中間・年度末に学校長・事務長・両学科副学校長・経理担当者で確認を行うとともに、全職員へも周知を行っていく。

小項目 Ⅷ-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: A

■コメント

学校法人として財務基盤は安定している。

小項目 Ⅷ-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: A

■コメント

有効かつ適切に実施されている。

小項目 Ⅷ-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: A

■コメント

適切な会計監査が行われている。

項目Ⅸ 法令等の遵守

総括

法令順守は、法人全体で取り組まれている。本校においても①学校基礎調査②専修学校各種学校評価③学校指定規則に基づく報告を毎年行い、法令を遵守している。

個人情報保護に関しては、法人全体で規定を設けており、教職員及び外部講師、学生が遵守すべき事項が定められている。臨床実習における学生の個人情報保護については、SNS の取り扱いを含めて指導を徹底している。

課題

本校では、これまで問題は起こっていないが、昨今、世間では若者の SNS 等を通じての情報漏洩や不適切動画の投稿が問題となっているため、今後も職員ならびに学生に対して教育を継続していく必要がある。

改善の方策

教職員・学生に対して、SNS ならびに個人情報保護に関する教育を毎年実施していく。

小項目 Ⅸ-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: A

■コメント

適切に運営されている。

小項目 Ⅸ-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: A

■コメント

適切な対策が取られている。

項目Ⅹ 社会貢献・地域貢献

総括

山口県理学療法士会や関連病院等に施設を貸し出し、地域に対して貢献を図っている。また、

本校はボランティア活動を推奨しており、地域の清掃活動や障がい者支援、下関市内のスポーツ行事等に学生や教職員が積極的に参加している。

課題

学事に支障を来さない時期に合ったボランティア情報を多く入手する必要がある。

改善の方策

地域と連携を取りながら、地域のボランティア情報を入手するとともに、学校独自の地域清掃活動などを継続していく。

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: A

■コメント

地域や高校と連携を図り、スポーツ行事等へ理学療法学科教員の知識技術を生かした支援を実施している。今後も継続し、社会貢献・地域貢献を行っていく。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: A

■コメント

今後もボランティア活動を推奨していく。